

2016年度第2四半期決算説明会 質疑応答

開催日 : 2016年11月11日(金)
出席者 : 代表取締役社長執行役員 中島 康輔
取締役専務執行役員 加藤 孝明
取締役専務執行役員 齋藤 圭介
専務執行役員 大野 雅生

1、ショベル需要の見通しについて

- Q. 特に新興国など、2017年度以降のショベルの世界需要の見通しについて教えて欲しい。
- A. 中国市場は工事量も増加しており、底打ち感がある。新興国については、特にインドにおいてインフラ投資が堅調で更なる伸びが期待される。ちなみに、その他地域については、欧州は、南欧を含め堅調に推移する見通し。北米は、公共投資が減少傾向で需要の鈍化が見込まれる。日本は、在庫調整が終了し今後緩やかな回復が見込まれる。

2、中国ショベルメーカーの在庫状況について

- Q. 中国ショベルメーカーの現在の在庫水準について教えて欲しい。
- A. 市場の全体感としては、地場メーカーも含め各社とも生産量は増加しており、当社への引き合いも旺盛で、生産計画も上向いている。在庫水準については、昨年度の需要急減時は5~6ヶ月分あったショベルメーカー側の在庫が、2ヶ月程と適正水準まで低下し、生産と販売の一致が見られる。

3、為替感応度について

- Q. 為替感応度を教えて欲しい。
- A. ドルが1.5億円/年、ユーロが0.4億円/年、人民元が1.1億円/年。
(いずれも1円動いた場合のセグメント利益に与える影響額)

4、AC事業の下期計画について

- Q. 上期実績と比較し、セグメント利益で下期減益となっているが、その要因は？
- A. 市販ビジネスは第1四半期に最も売上が伸びる傾向にある。更に、これまで好調であった中東/アフリカ市場における市販ビジネスで、為替影響や原油安影響により停滞感が出てきている。これらの要因から、本年度下期は、売上/利益共にあまり伸びない事が予想される。

5、HC 事業の市場シェアと生産能力について

- Q. シリンダの生産能力を縮小させた事により、市場の回復期に能力不足となる可能性は無いか。
- A. 縮小前のシリンダ生産能力は、2010年～2011年の中国建機市場が急拡大した時期に立てた将来予測に基づくもので、現在の見通しでは、そこまで全世界需要が拡大する事は無いと見ており、十分に余裕を見た能力削減である。

6、EPS 事業の状況について

- Q. 今回の業績見通しの中で、EPS 事業はどの程度足かせとなっているのか？
- A. 顧客もある話なので具体的には申し上げられないが、EPS は将来の自動運転の時代に向けて不可欠な技術であり、今後も継続していく方針に変わりはない。
来年5月に発表予定の次期中期経営計画の中で改めてご説明する。

7、シリンダ生産本数の状況について

- Q. 昨年度からの拠点別のシリンダ生産本数の実績と見通しを教えてください。
- A. 中国拠点は前年から増加しており、足元は期初計画を上回る月三千本レベルで推移している。
国内拠点も月八千本レベルまで回復している。

8、事業構造改革の効果について

- Q. 昨年度中国で実施の事業構造改革の効果について教えてください。
また、人員200名の削減の状況についても教えてください。直接工も削減したのか。
- A. 2016年度上期の実績として、前年度対比で約3億円の削減効果があった。
通期では、5～6億円の削減効果を見込んでいる。
中国拠点の人員削減については、昨年度100名規模で実施を行い、今年度残り100名を予定している。直接工の削減は既に実施し、拠点統合による間接部門のスリム化に今年度取り組んでいる。

以 上